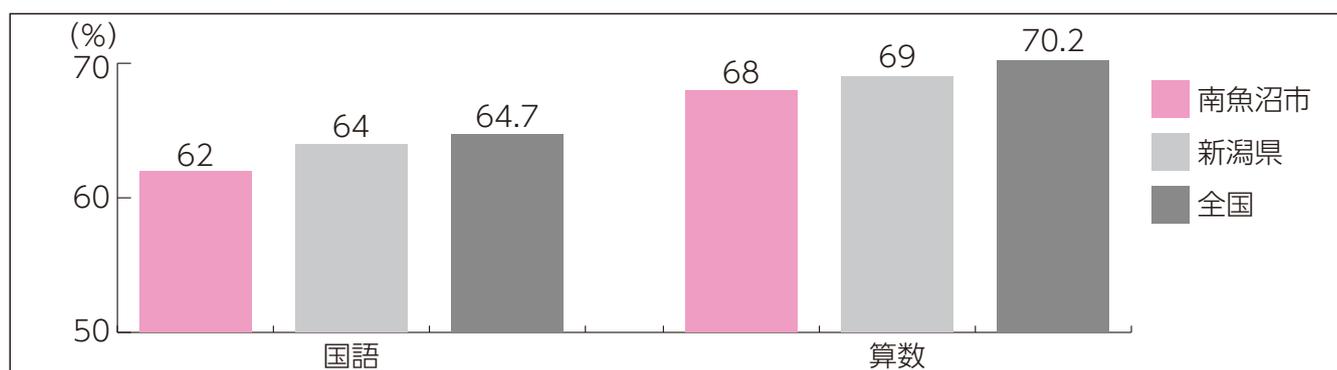


5月27日(木)に全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、全国学力・学習状況調査が実施されました。8月に発表された結果を、全国・県と比較して分析を行いました。

※英語の調査（令和元年度：中学3年生を対象に実施）は実施されませんでした。また、令和2年度はすべての調査が実施されませんでした

1 正答率の比較

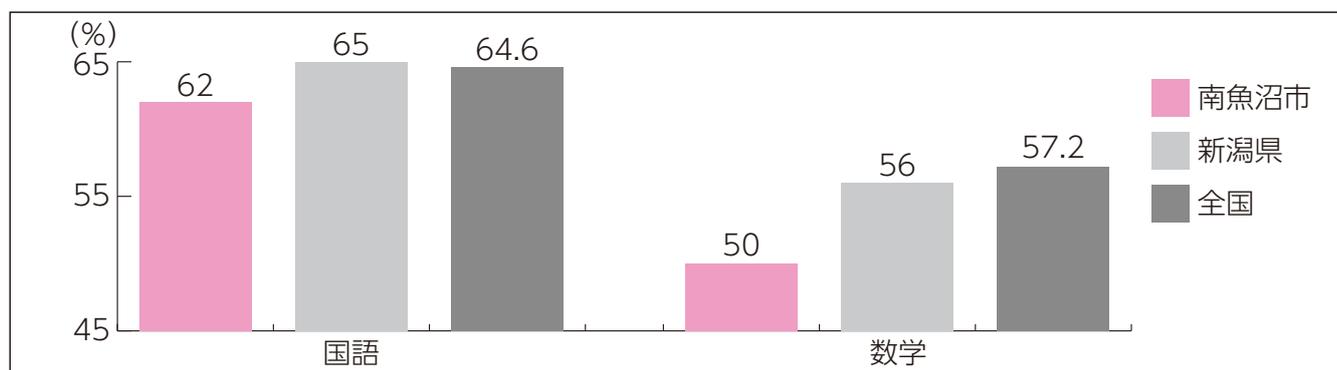
小学6年生の平均正答率



国語：全国と県の平均正答率をやや下回りました。「自分の考えを正しく表現する」ことを苦手とする傾向があります。国語学習の目的は、コミュニケーション能力の向上です。テストの内容は日常生活を想定して、伝える、読む、書く力を測る設問が取り入れられています。家庭でも「漢字を使う」「自分の考えを伝えて話し合う」ことが大切です。

算数：全国と県の平均正答率をわずかに下回りましたが、「資料の読み取り」「日常生活の場面に即して判断する」などの項目で、全国の平均正答率を上回りました。速さを求める式の意味や組み合わせた面積の求め方など、学んだことを理解して活用する力をつけることが課題です。基礎・基本の確実な定着とともに、活用する力を一層伸ばすことが大切です。

中学3年生の平均正答率



国語：全国と県の平均正答率をやや下回りました。小学6年生と同様に「自分の考えを正しく表現する」ことを苦手とする傾向があります。家庭内で、社会の出来事について相手に伝わるように説明し合うような場をつくり、話し合うことで正確に伝える力、聞き取る力を伸ばすことが重要です。

数学：全国と県の平均正答率を大きく下回りました。特に、数式、図形、表、グラフから読み取れる情報を整理して、理解することや説明することを苦手とする傾向があります。基礎・基本の定着に一層力を入れるとともに、授業や家庭などで学習したことを理解して応用する力や説明する力を伸ばすことが大切です。